

学科長の挨拶

総合文化学科長 野中 博史



総合文化学科には最近、松戸市内の企業や団体から「新商品開発で連携したい」、「町づくりに協力してほしい」といった要望が頻繁に来るようになった。

きっかけになったのは一昨年のことである。文部科学省が始めた「地（知）の拠点大学整備事業」の対象大学として、聖徳大学短期大学部（総合文化学科、保育科）が選ばれたからである。数多い私立短期大学の中で、選ばれたのは全国で2大学だけであった。聖徳大学短期大学部が提案した地域貢献プログラムが高く評価されたことが選ばれた理由である。

プログラムの内容は保育科が地域の子育て支援に特化しているのに対し、総合文化学科は市街地の活性化、産業界の活性化など幅広い支援を教育活動を通じて行うことにしている。松戸市内の企業や団体から「連携したい」といった要望が頻繁に来るようになったのは、そうした総合文化学科の取り組みが地域から認知され評価されるようになったことの証であろう。要望を受けて、学科では教員と学生が一体となってお菓子やジュースといった各種商品の開発、地域かるた制作や地域観光雑誌の編集・出版等、幅広い地域貢献事業に取り組んでいる。

このように総合文化学科は今、大きく変わりつつある。全国から注目され、地域から信頼され、有能な人材を輩出する大学。全国に誇り得る、そんな大学になることを確信している。

昨年のビソシエ・ウーマンの会の様子

昨年8月30日(土)、本学1号館5階のカフェ・リュミエールにて【第7回ビソシエ・ウーマンの会】が開催され17名の卒業生と、27名の教職員が参加しました。

開会の辞として野中学科長からご挨拶をいただき、会が始まりました。

焼きたてのスコーンを食べながら和やかに歓談が進み、中盤には卒業生5名に近況を報告していただきました。『希望通りの職場で勤務しています』『地元で行政職として働いています』『資格を活かした職種に就くために勉強しています』等、熱い気持ちを

持って仕事に取り組んでいる姿が目に見え、浮かぶようなスピーチでした。

また『声優になるために専門学校に通っている』という新たな夢を持って前進している卒業生もおられました。

その後のじゃんけん大会では、豪華景品をかけて白熱した戦いとなり会場内は大いに盛り上がりました。

キャリア支援課 菊入課長からは、卒業生へ熱いエールをいただきました。

終わりに青空の下、参加者全員で記念撮影を撮り楽しい会は幕を閉じました。

* お知らせ *

今年度の『第8回 ビソシエ・ウーマンの会』は10号館14階で開催いたします。